

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	山梨県	2 補助事業の種類	世界文化遺産活性化
3 実施計画の名称	世界遺産富士山普及啓発事業	【計画の改善時期】 平成 年度	
4 実施計画期間	平成 27 年度 ～ 平成 30 年度		
5 実施計画の概要			
<p>富士山の普遍的価値において、構成資産のひとつひとつが資産全体の一部を成し、山の上方及び山麓における巡礼路全体の一部であることを、来訪者が容易に認知・理解できるように情報伝達を行うため、調査・研究成果に基づいて特定された巡礼路を活用し、構成資産のつながりに関する適切な情報提供を行うとともに、世界遺産センターを起点として、幅広く情報提供・情報発信を行う。</p> <p>富士山の世界遺産登録にあたり、ユネスコ世界遺産委員会から提出を求められ、2016（平成28）年に提出した全体構想（ヴィジョン）、巡礼路の特定、情報提供戦略等（以下「ヴィジョン及び各戦略等」という。）及びそれらに基づく具体的な施策を定めた包括的保存管理計画の着実な遂行に向け、富士山の顕著な普遍的価値を確実に後世へ継承する。</p> <p>平成30年度は、世界文化遺産富士山の顕著な普遍的価値を子どもから大人まで分かりやすく解説するガイダンス映像を作成する。</p>			
6 実施体制			
<p>山梨県が本実施計画に係る全体の企画・調整及び各補助事業に係る指導等を行う。主な担当課、役割は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民生活部世界遺産富士山課：世界遺産の保存・活用に関する指導・調整等 ・教育委員会学術文化財課：文化財の取扱等に関する指導・調整等 <p>補助事業は以下の団体が実施する。静岡県富士山世界遺産課の協力も得ながら実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山梨県富士山世界文化遺産保存活用推進協議会 <p>構成団体：山梨県、関係市町村及び一部事務組合、文化財の所有者又は管理団体等（別添名簿のとおり）</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成29年度交付決定額： 23,096 千円	平成30年度申請額： 9,330 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>【想定される効果】 本計画に基づく事業の実施により、山麓の霊地とされた富士五湖等の構成資産やそれらと富士山とのつながり・関係性への理解が深まり保全への意識が向上し、その文化遺産の保存と次世代への確実な継承が期待できる。また、地域産業との連携を通じて地域の活性化が期待できる。</p> <p>【効果の測定方法】（1）事業参加者数、参加者へのアンケートの実施（2）新聞等の地元メディアでの取り上げ状況（3）富士山世界遺産センターへの来訪者数</p> <p>【ガイダンス映像の活用効果】次のとおり活用することで、世界遺産富士山の価値の普及啓発が進むことが期待できる。</p> <p>（1）富士山世界遺産センターに来館する各種団体等を対象にした教育プログラムの中での使用。（2）山梨県富士山世界文化遺産保存活用推進協議会を構成する市町村、関係団体、資産所有者等が実施する事業等における使用。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	・世界遺産ガイド（ボランティアガイド）の養成事業の実施		
事業概要：	・日本全国への小学生向け富士山教育を推進するため、キッズ・スタディ・プログラムのインターネット教材の制作		
事業概要：	・世界遺産富士山の巡礼路を活用した構成資産等周遊プログラム「Rebirth!富士講プロジェクト事業」の推進		
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	山梨県県民生活部世界遺産富士山課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流				
評価指標区分 1 :	地域の文化遺産関係資料館、博物館等の年間入館者数 (具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標 1 :	富士山世界遺産センターの月平均入館者数	関連事業:	②、③		
目標値 1 :	【現状値】 平成 28 年度 27,600 人 ⇒ 【目標値】 平成 30 年度 28,100 人				
設定根拠 1 :	平成28年度の月平均入館者数27,600人に対し、年間伸び率1%を設定				
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
人	人	27,600 人	61,400 人	人	人
		98%	219%		
目標区分 2 :	地域の文化資源を活用した集客・交流				
評価指標区分 2 :	地域の文化遺産関係資料館、博物館等の年間入館者数 (具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標 2 :	富士山世界遺産センターの外国人月平均入館者数	関連事業:	①、④		
目標値 2 :	【現状値】 平成 28 年度 11,500 人 ⇒ 【目標値】 平成 30 年度 11,700 人				
設定根拠 2 :	平成28年度の外国人月平均入館者数11,500人に対し、年間伸び率1%を設定				
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
人	人	11,500 人	20,448 人	人	人
		98%	175%		
目標区分 3 :	地域の文化資源を活用した集客・交流				
評価指標区分 3 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標 3 :	富士山世界遺産センターの教育プログラム参加者を対象に、映像の趣旨を理解したか聞き取り、理解した人数と割合を集計する。500名に対して聞き取るまで実施する。	関連事業:	⑤		
目標値 3 :	【現状値】 平成 29 年度 0 % ⇒ 【目標値】 平成 31 年度 80 %				
設定根拠 3 :	記入式のアンケートは教育プログラムの限られた時間内で回答を得ることが困難であるため、世界遺産センター職員による聞き取りの方法を採用する。一定の傾向が掴めると見込まれる人数を500名(20~30グループ)と設定し、聞き取りを実施する。				
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
%	%	%	%	%	%

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	世界遺産富士山ガイドブック作成事業	実施団体：	山梨県富士山世界文化遺産保存活用推進協議会			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 27 年度 ~ 平成 30 年度			
事業概要：	世界遺産富士山構成資産の歴史的成り立ちや相互の関係を来訪者に情報提供するため、世界遺産富士山ガイドブック英語版を制作する。なお、H28に自主事業で日本語版を制作済みであり、国内外からの来訪者に対して世界遺産センター等で世界遺産富士山の価値の普及啓発に活用する。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	世界遺産富士山ガイドブック（英語版）を使用した外国人のうち世界遺産への理解度が増加した者の割合（アンケート結果）					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 % ⇒ 【目標値】 平成 30 年度 80 %					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
%	%	%	%	%	%	
事業②：	世界遺産富士山構成資産映像作成事業	実施団体：	山梨県富士山世界文化遺産保存活用推進協議会			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 27 年度 ~ 平成 30 年度			
事業概要：	世界遺産富士山構成資産を体感できるVR撮影（25カ所）を行い、富士山世界遺産センターに体感コーナーを設置する。なお、体感機器は既存機器を活用し、市町村等への啓発用貸出を行う。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	富士山世界遺産センターにおけるVR映像視聴者のうち世界遺産への関心・理解度が増加した者の割合（アンケート結果）					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 % ⇒ 【目標値】 平成 30 年度 80 %					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
%	%	%	%	%	%	
事業③：	世界遺産富士山登山道映像作成事業	実施団体：	山梨県富士山世界文化遺産保存活用推進協議会			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 27 年度 ~ 平成 30 年度			
事業概要：	世界遺産富士山構成資産の登山道を体感できるタイムラプス撮影（静岡県側2ルート）を行い、富士山世界遺産センターの登山道体感コーナーを拡充し、構成資産全4登山道を体感可能にする。なお、世界遺産センター体感機器、市町村等への啓発用貸出機器は既存機器を活用する。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	富士山世界遺産センターにおけるタイムラプス映像視聴者のうち世界遺産への関心・理解度が増加した者の割合（アンケート結果）					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 % ⇒ 【目標値】 平成 30 年度 80 %					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
%	%	%	%	%	%	

事業④：	世界遺産富士山ガイドマップ作成事業	実施団体：	山梨県富士山世界文化遺産保存活用推進協議会			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 27 年度 ～ 平成 30 年度			
事業概要：	世界遺産富士山の巡礼路を活用して構成資産等を巡るRebirth!富士講プロジェクト事業のガイドマップ英語版を3種類制作し、国外の訪問者の世界遺産富士山への理解と周遊促進を行う。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	ガイドマップ(英語版)を使用した外国人のうち世界遺産への理解度が増加した者の割合(アンケート結果)					
目標値：	【現状値】平成 28 年度 % ⇒ 【目標値】平成 30 年度 80 %					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
%	%	%	%	%	%	
事業⑤：	世界遺産富士山ガイダンス映像作成事業	実施団体：	山梨県富士山世界文化遺産保存活用推進協議会			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 27 年度 ～ 平成 30 年度			
事業概要：	世界文化遺産富士山の顕著な普遍的価値を子どもから大人まで分かりやすく解説するガイダンス映像を作成する。映像コンテンツは、「信仰の対象」及び「芸術の源泉」について解説する内容とする。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	富士山世界遺産センターの教育プログラムにおいて映像の趣旨を理解した者をセンター職員が聞き取りにより集計し、理解度を測定する。対象者が500名に達するまで実施する。					
目標値：	【現状値】平成 29 年度 0 % ⇒ 【目標値】平成 31 年度 80 %					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
%	%	%	%	%	%	